

# 古河歴史見聞録

これまで市内で行われた発掘調査では、多くの遺物が出土しています。今回はその中から、東の門西の門城跡で出土した、平安時代の人名が刻まれた紡錘車について紹介します。

## 紡錘車とは

麻などの繊維から糸を作る際には、必要な長さを確保し、太さや強さを均一にする作業が必要になります。その際に使用される道具が紡錘具です。紡錘具は軸に当たる紡錘と錘などの役割を果たすこのま状の紡錘車から成り、軸は木質のためほとんど残存していません。一方、紡錘車はその役割から重さが必要となるため石や土、鉄等で作られており、奈良・平安時代の集落跡から数多く出土しています。このことから、集落内で盛んに糸や布の生産が行われていたことが推定されます。



▲糸によりを掛ける様子

## 東の門西の門城跡の紡錘車

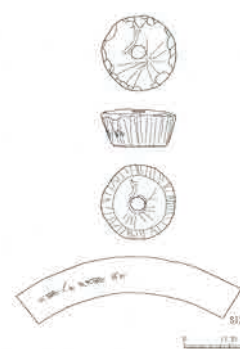
東の門西の門城跡では、県の事業に先駆けて平成30年度から継続して発掘調査が行われています。その結果、遺跡名である戦国時代の城に関わる堀跡などのほか、古墳時代から平安時代(1500、1000年前)の大きな集落跡が存在していることが分かりました。名前が刻まれた石製紡錘車は、平安時代(9世紀末頃)と考えられる遺構から出土しています。石製紡錘車の側面には、上下方向の線と共に「大田部人万呂」「大田部万」(「万」は不明)と2人の人名と見られる文字が浅く刻まれています。

## 本田遺跡の紡錘車

同様に文字が刻まれた紡錘車を市内で探してみたと、五部の県立三和高校周辺に広がる本田遺跡の発掘調査で出土した石製紡錘車の例がありました。この石製紡錘車は、新しい時期の遺構に混ざるような形で出土し

# 名前が刻まれた紡錘車

市内の遺跡発掘調査出土品の紹介



▲5次調査 第2号堅穴建物跡出土線刻紡錘車

ており正確な時期は特定できませんが、周囲で確認された遺構から、平安時代の集落で使われていたと推測されます。紡錘車の側面には「物マ大方見有瓦」と刻まれており、報告書によると「瓦」とは紡錘具を示し「物部大方(呂)が現在所有している紡錘具」という意味になると考えられています。

## 文字が刻まれた意味

では、なぜ紡錘車に名前が刻まれたのでしょうか。その理由を考える上で、同じ時期に土器に墨で文字等が書かれた墨書土器が参考になります。研究によると、集落跡から出土する墨書土器は、主に所有等を示すものと祭祀に関わる

ものの2つの理由が考えられるそうです。

本田遺跡の紡錘車は、人名と品名が刻まれており、まさに所有を示す良い例といえます。しかし、東の門西の門城跡の紡錘車は、単に所有を示すだけでは考えにくい点があります。なぜ2人の名前が刻まれたのか、2人はどんな関係性か、共有していたのか、それとも譲られたのか等、いくつもの疑問点が浮かぶのです。紡錘車をよく観察してみると、別面に記号や呪符のような刻みが確認できるため、祭祀に使用された可能性も大いにあります。

このように、まだ不明な点も多く、今後も類例を探しながら調査をしていく必要があるそうです。また、市域について記録した同時期の文献資料がほぼない中で、当時住んでいた人名が判明する資料が出土したことは、地域の歴史を考察していく上で大変貴重な資料になるといえます。

文化振興課学芸員 大久保芳紀

## 【児童書/読み物】

トモルの海 戸部寧子 作  
夏の甲子園。どの高校もみんな、一回しか負けてない。だけど、その一回で夏が終わる。小学5年生のトモルがお母さんの田舎で出会ったふしぎな少女。その正体は…。現実と夢が溶けあう、わすれられない“たった一回”の物語。  
出版社…フレーベル館

【絵本】  
パッチワーク マット・デ・ラ・ペーニャ 文  
あなたがもっているものはひとつじゃない。出会ったものの、感じたこと、全てがつながり合っている。パッチワークのように、いびつでも、ちぐはぐでも美しいものになるはず。子どもたちのもつ無限の可能性を描いた絵本。  
出版社…岩波書店

# 図書館の本棚から



古河図書館

## 【一般書/小説】

月ぞ流るる 澤田瞳子 著  
宮中きっての和歌の名手と言われる朝児は夫を亡くしたばかり。ひよんなことから女房として再び宮仕えをすることになったが…。『栄花物語』の作者である朝児(赤染衛門)から見た宮廷を描く。  
出版社…文藝春秋

【一般書/随筆】  
その世とこの世 谷川俊太郎 著  
ブレイディみかこ 著  
いまこの向こうの「その世」に目を凝らす詩人・谷川俊太郎と「この世」の地べたから世界を見つめるライター・ブレイディみかこ。各々の暮らしを背景に重ねた、詩と散文による言葉の逢瀬。  
出版社…岩波書店



# ファインダー越しの昭和時代



まちの中をゆっくり走る馬車。荷台を押す少年たちのにぎやかな様子が伝わります。昭和30年ごろから車社会が到来しましたが、古河ではまだ馬車や人力による運搬がほとんどでした。



古河市在住写真家 鈴木路雄さん

## 馬車が行く 昭和32年4月

